

## 受験体験記 名古屋市立大学 ビジネス科女子

私がこの学校を目指すようになったのは、2年生の夏頃に行われた進路希望調査がきっかけでした。何気なくこの学校の名前を書いたところ、先生が熱心に話してください、私は興味を持つようになりました。その後オープンキャンパスに参加し、学校の雰囲気を感じたことで「この大学に入学したい」と直感的に思いました。ゼミの内容や導入されている制度、サークル活動にも魅力を感じ、本格的に志望校として視野に入れるようになりました。

条件としては、評定平均 4.0 以上の成績に加え、日商簿記検定 2 級以上、全商簿記一級、基本情報技術者以上、全商情報処理 1 級両部門のいずれかを取得していることが求められました。何をすれば合格に近づくのかが分からなかったのも、とにかく我武者羅に全商検定、数学検定、実用英語検定などの様々な検定や部活、学業に取り組みました。3年の9月までを検定取得期間に、その後は小論文や面接対策期間と決め、志望校を定めた2年の秋からはより一層勉強や部活動、資格取得に励んできました。しかし、検定取得期間の途中で燃え尽きてしまい、勉強に身が入らず、帰宅してもずっと寝るだけの日々が続きました。周囲との環境の違いに嫉妬を感じたり、周りの人が進路を実現していく姿を見て焦りや不安で押しつぶされそうになったりしました。そんな思いを1人で抱え込んでいたのですが、幸いにもその悩みを先生に伝えることができ、部活動を休みつつ、11月からはまた気持ちを切り替えて毎日面接練習と小論文に取り組み、本当に沢山の先生からアドバイスを頂くことができました。

当日は、100分間の小論文と15分間の面接が行われました。緊張から前日の夜はうまく眠れず、当日も体調が万全とは程遠い状態でした。小論文では、秘境駅という全く知らないことについて主張文を書くことになりました。最初から30分間、ほとんどペンは動かすことができませんでした。奇想天外な発想を目指そうとせずに、とにかく自分の考えを表現することに集中しました。結果的に、200字から300字の問題を5題、全て書き終えることができました。面接では、予想していなかった質問がされたり、すごく準備して話したかった質問がされなかったり、予想外の連続でした。全くうまく話せませんでした。それでも合格できたのは詰まりながらも最後まで自分の意見を主張しようとしたからだと思います。

今回の受験を通して、私は人に素直に頼ることの大切さを学びました。この受験期には、多くの方々に迷惑を掛けましたが、私の進路実現のために支えてくださった先生方や周囲の友人には、感謝してもしきれません。もし1人で悩みを抱えたままだったら、私は合格を掴み取ることができていなかったと思います。努力をしていれば、見てくれる人や応援してくれる人は必ずいます。これから進路実現に向かう皆さんには、自分を大切に、人に素直に頼ることを恐れなくてほしいです。この体験が、皆さんの力になれば嬉しいです。